

2021年8月24日

東京学芸大学 文部科学省委託「高等学校における日本語指導体制整備事業」

企画開発委員会調査部会 第2回ヒアリング 資料

大阪府立大阪わかば高等学校（多部制単位制Ⅰ・Ⅱ部）

大阪府立大阪わかば高等学校報告資料

〈大阪府の現状〉

「日本語指導が必要な帰国生徒・外国人生徒入学者選抜」

特別枠校 2001年度 2校

→ 2004年度 4校

府立高校における日本語指導が必要な生徒約190名在籍

→ 2020年度 7校（全定数92名）

府立高校における日本語指導が必要な生徒約400名在籍

〈R3年度 大阪わかば高等学校〉

①大阪わかば高等学校 日本語指導が必要な生徒の実態

1年次生： 中国2人、ベトナム1人

2年次生： フィリピン1人

○R2年開校より定員割れ、二次募集、編転入学、秋期入学を実施

「特別枠校を受験して不合格となった生徒」「他校を留年して転入学した生徒」

「中学校を卒業しても高校に進学せず1年遅れで入学した生徒」、

「小学校、中学校より不登校だった生徒」「教室に入り辛く別室登校していた生徒」等が在籍している。

○日本語能力・学力

・母語での理解力、思考力はあるが、日本語を話そうとしない生徒もいる。

・日本語での日常会話(聞く、話す)は、大きな問題はないが、日本語での理解力や日本語での読み、書きが十分でない生徒が多い。

・学習習慣が身につけていない、積み重ね学習が苦手な生徒が多い。

○生活・学習上の困難

・家庭が複雑で不安定、経済的に困難な生徒が多い

・スクールカウンセラー(SC)やソーシャルワーカー(SSW)、児童相談所等と連携して支援している生徒もいる。

←全入学生徒を対象に3月中学校訪問を実施

←全生徒支援のため、SC、SSWが定期的に来校

○進路（キャリア認識、就業に対する意識）

・卒業の目途が立たず、まだ、現実的に進路について考えられない生徒が多い。

②日本語指導・教科指導

○現在は、特別枠校ではないため、「日本語」の授業や抽出授業は行っていない。

支援が必要な生徒や不登校だった生徒もいるため、プリントやテストの「ルビうち」等の配慮は学校全体で取り組んでいる。

○今年度は、大阪府教育委員会から、1年生のために中国語(年間20回)とベトナム語(年間12回)

「教育サポーター」を派遣していただいている。放課後に、それぞれの母語で学校のルールや申請書類の説明、教科の授業方法や課題についての説明、検定試験等の学習、時には悩み相談などによっていただくなどの支援を受けている。体系的な日本語学習や母語学習等はできていない。

③進路支援 進学指導・就職支援・キャリア教育

○単位が修得できておらず、進路支援にまで指導が及んでいない。まずは、修学指導、毎日登校し、授業に出席するよう励ましている。

○日本語能力試験や中国語検定等、過去問題には取り組むが、受験にまでは至らず。

④多文化共生のための教育活動等

- 外国語の選択授業として「韓国・朝鮮語」「中国語」を開講。
- 学校全体で、ソーシャルスキルトレーニング（SST）や3 RESPECT（自分を大切に！人を大切に！周りのものを大切に！）に取り組み、多様性やちがいを大切にすることを学ぶ機会をつくっているが、外国人生徒の存在を意識した授業やHRとしては、今年度は特に実施していない。

⑤校内体制・生徒支援体制

- 「人権教育推進委員会」があり委員長を中心に、外国籍生徒の把握や日本語指導が必要な生徒を把握を実施している。大阪府教育委員会に「教育サポーター」の派遣や「懇談通訳」を申請するためには、在籍等の把握や本人および家族の日本語力の把握が必要となるためである。
- 全校生徒を対象に、SCやSSWが定期的に来校し、心理的支援や福祉的支援を行ったり、専門機関へつないだりしている。なお、毎年3月に全入学生徒を対象に、全教職員で中学校訪問を実施し入学生徒の生活や学習状況を聞き取りし、入学後の支援に活かしている。

〈 R4年度～「日本語指導が必要な帰国生徒・外国人生徒入学者選抜」実施 大阪わかば高等学校の取り組み（予定） 〉

①R4年度より「日本語指導が必要な帰国生徒・外国人生徒入学者選抜」を実施 定員は未発表

②日本語指導・教科指導

- 高校で対話型アセスメントの導入。
 - 教科「自己実現のための日本語」として、必要な日本語力を伸ばす以下の科目を設置。

科目 読む書く中心の授業	: 「日本語リテラシー」「時事日本語」「日本語実践」
聞く話す中心の授業	: 「日本語コミュニケーション」「日本文化事情」
進路実現に向けた授業	: 「日本語キャリア演習」「日本語コミュニケーション演習」
自分のルーツを大切にす授業	: 「母語継承語」
 - 必修科目(体育、芸術をのぞく)は、抽出し、少人数でやさしい日本語を使い授業を行う。
 - 大阪大学と協働で教材・支援方法を開発する。
- ※枠以外の入学者も、必要な生徒は全員日本語指導や抽出の教科指導を受けることができる。

③進路支援 進学指導・就職支援・キャリア教育

- 地元小・中学校、NPOや行政機関と連携し、日本語と母語継承語を活かした就業体験を教科「地域連携」科目「インターンシップ」として導入し、キャリア支援、自己実現につなげる。
- 進路実現に向け、授業として、「日本語キャリア演習」「日本語コミュニケーション演習」を卒業年次に開講する。

④多文化共生のための教育活動等

- 校内の居場所、活躍の場所となる「部活動」をつくり、教育委員会や府立外教(大阪府立学校在日外国人教育研究会)主催の進路説明会や交流会、スピーチ大会等に参加する。
- 校内ではHRや文化祭等の学校行事、また、校外では地元のNPO等と連携し、多文化共生を推進するための活動を行う。
- 来年度より土曜講座「やさしい日本語～おおさかでもにくらす～」を開講し、本校生徒だけでなく、一般の方にも学びの機会を提供する。

⑤校内体制、地域との連携

- 外国人等生徒を支援するための「校内体制」を校内で検討中。
- 地元の行政、NPO、小中学校、大学等専門機関と連携し、協働で、生徒や保護者を包括的に支援するネットワークづくりを構築中。